



平成30年2月20日（火）岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
水産研究所	資源増殖部	松田・大原	直 通 0586-89-6351 F A X 0586-89-6365
農政課	農業研究推進係	神尾・須賀	内 線 2804 直 通 058-272-8415 F A X 058-278-2680

冷水病に強い子持ちアユの生産に適した 養殖用アユ新系統の開発

県水産研究所では、県内漁業資源の増大を目指し、養殖技術や資源管理技術等の開発、優良系統の開発並びにこれらの研究成果の普及・啓発活動に取り組んでいます。

このたび、生産現場から望まれてきた「冷水病^{*1}に強く」、「子持ちアユの生産に適した」養殖アユの新系統を開発しました。

今回開発した系統と本県が開発した従来の技術^{*2}を組み合わせることで、本県の養殖アユの更なる安定生産につながることを期待されます。

記

1 育成経過

- ・従来の県開発の子持ちアユ系統は、冷水病に弱い欠点があり、県内養殖業者からは冷水病に強く、子持ちアユの生産に適した系統の開発が要望されていた。

※従来の系統は、平成20年から県内養殖業者へ供給

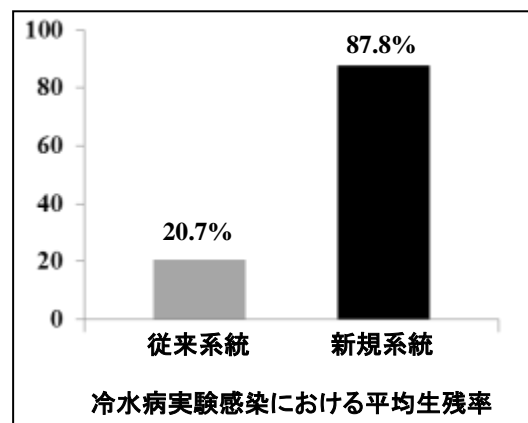
- ・このため、平成25年から、従来系統をベースに、人為的に冷水病菌に感染させ、生き残ったものどうしを交配する選抜育種により、4年をかけて育成。

2 新系統の特徴

- ・県内で確認されている冷水病菌に対して、非常に強い耐性があり、生存率が高い。
- ・研究所内の調査では、従来系統と同様に卵の量が多く、姿がきれいで、子持ちアユの生産に適している。

3 今後の予定

- ・新系統の県内養殖業者への本格供給は、平成30年6月頃から開始予定。
- ・新系統から養殖されたアユの本格出荷は、平成31年秋頃を予定。



※1 冷水病について

- 冷水病は、フラボバクテリウム・サイクロフィラムという細菌による感染症で、水を介して感染し発病する病気
- 発病すると体表の穴、下顎の出血などの症状があらわれ、症状が進むと死亡。

※2 本県が開発した技術

- 平成20年に県河川環境研究所（現：水産研究所）が、「子持ちアユ」を効率的に生産（雌化^{めすか}）する技術を全国で初めて開発。
- 具体的には、通常的人工受精では、雄と雌が半数ずつ生まれるが、当研究所が雌の仔魚を一定の条件下で飼育することで「X精子だけ（全雌化精液^{ぜんめすか}）」を生産する雄親^{おや}を作成
この「全雌化精液^{ぜんめすか}」を、養殖業者の段階で人工授精に使用すれば、飼育魚はすべて雌（子持ちアユ）に揃えることが可能となる。